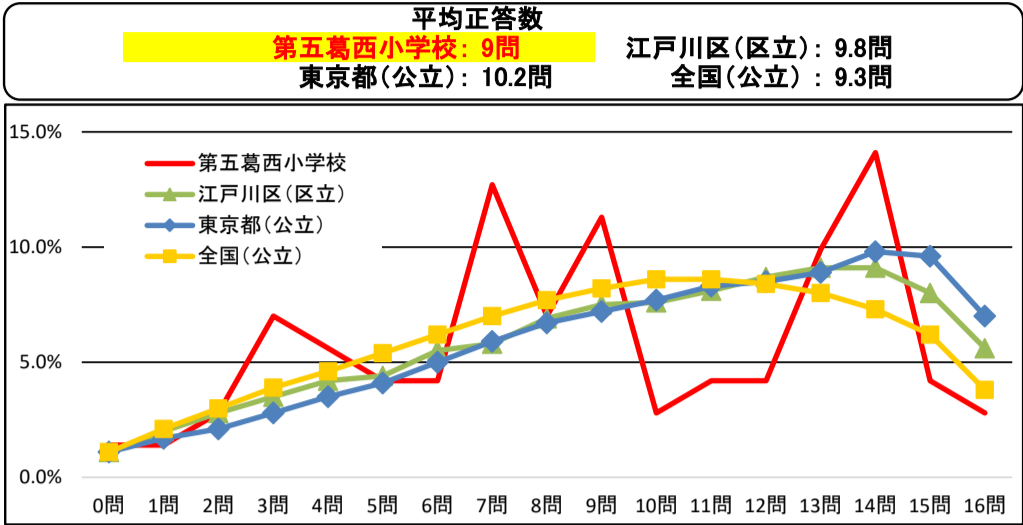


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】江戸川区立第五葛西小学校

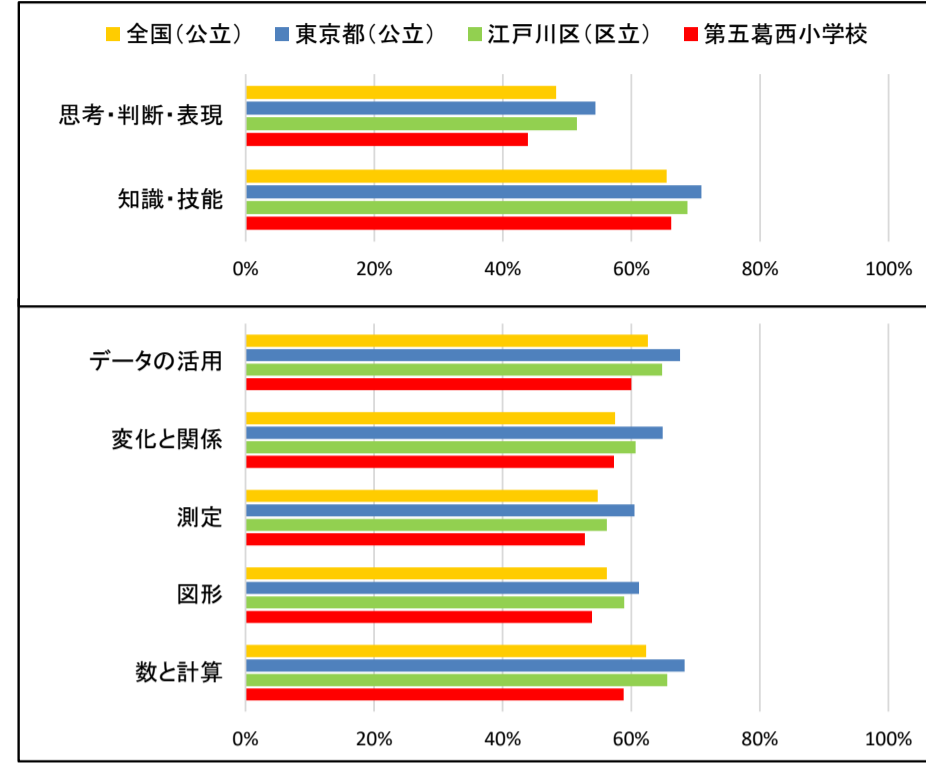
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

第五葛西小学校	56%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-8.0

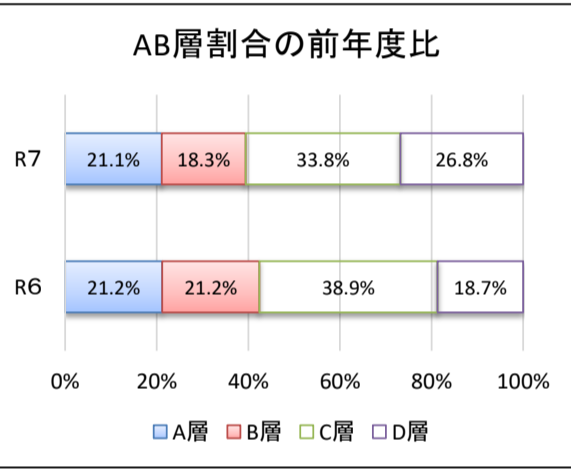
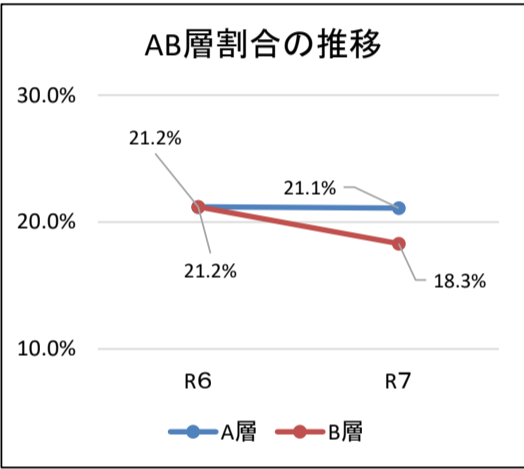
「領域別」の結果



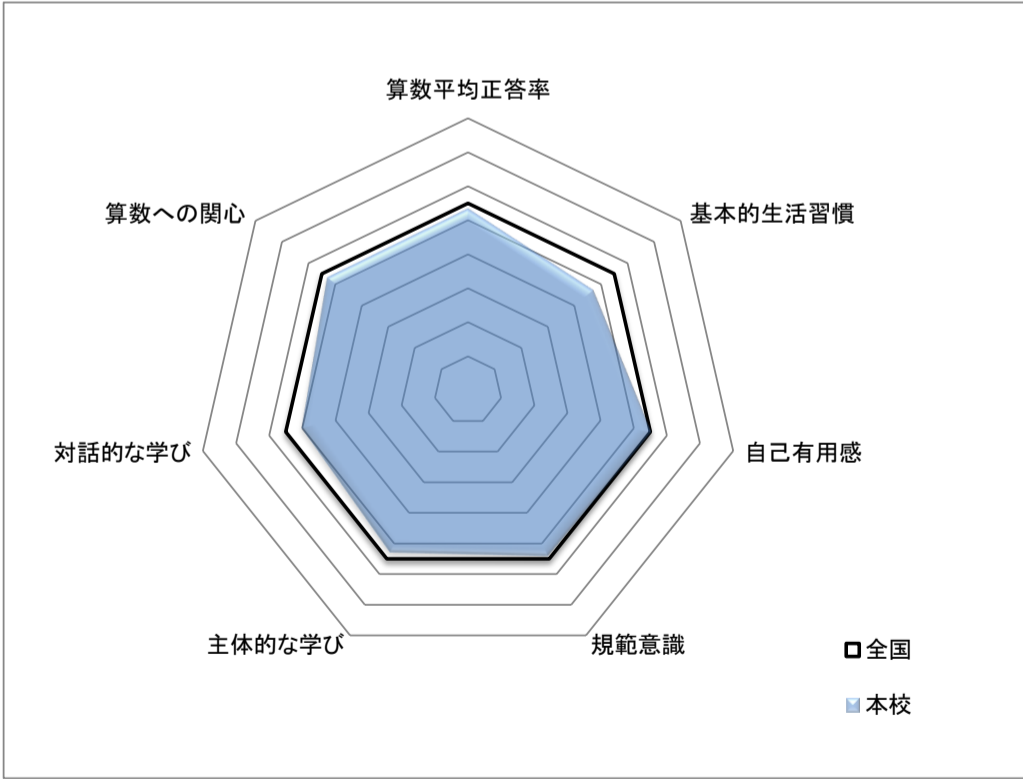
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

算 数	上位 ← → 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
第五葛西小学校	21.1%	18.3%	33.8%	26.8%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

今年度の学力調査の結果、算数は2%全国の平均正答率を下回った。基礎的学力や知識の定着が弱い部分があると考えられる。質問調査では、「規範意識」や「自己有用感」は全国値とほぼ同率であるが、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「算数への関心」は全国値を少し下回る結果となった。また、「基本的学習習慣」は全国値を大きく下回る結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

・学力調査や個々の学習カルテを通して、児童の実態を把握し補習を行ったり、授業改善を行うと共に、家庭にも情報を提供し、連携を図る。
・アクションプランとして、自分の課題に合った自主学習に取り組む機会を設ける。
・「江戸川っ子study week」を設定して家庭でもミライシードを活用した復習への取り組みを働きかける。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
・A層の割合は昨年度21.2%から本年度21.1%とほぼ横ばいであった。B層の割合は、昨年度21.2%から本年度18.3%へと2.9ポイントの低下が確認された。また、全国平均と比較すると、A層は全国に17.3%に対して本校は21.1%、B層は全国25.0%に対して本校は18.3%となっており、B層の底上げが課題となっていることがうかがえる。これらの結果から、基礎計算力や文章題の理解力に課題が生じていることがうかがえ、日々の授業改善や学習習慣の定着に向けた取り組みが求められる。
・単元ごとの振り返りテストや家庭学習を活用し、基本技能を繰り返し定着させる取組を行っている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上
・授業力向上委員会を中心に授業改善の取組を進めている。教員同士が授業を公開し合う相互参観を定期的実施し、振り返りや意見交換を通して指導力の向上を図っていく。
・外部研修への参加を積極的に進め、得られた知見を校内で共有することで、指導法やICT活用の幅を広げていく。

・基礎学力の保障

・単元ごとの振り返りテストや家庭学習を活用し、基本技能を繰り返し定着させる取組を行っていく。また、学習状況に応じた個別支援を取り入れ、理解が不十分な児童への丁寧なフォローを充実していく。加えて、ICT機器を活用したドリル学習を取り入れ、児童が自分の理解状況を把握しながら主体的に学習できる環境を整備していく。
・基礎計算力や文章題の理解力を全児童に定着させるため、段階的な指導や進度別の少人数指導、補習を実施していく。

・学習習慣の確立

・計算ドリルやICT機器を用いたドリル学習を活用し、毎日継続して学習できる環境を整えていく。
・文章題や応用問題に取り組む際には、問題の読み取りや考え方の整理をノートに書く習慣を身に付けさせ、課題解決の過程を理解する力を育ていく。
・「基本的学習習慣」の定着状況も低いことが明らかになった。生活習慣が整っていないと、学習に集中する力や家庭学習の習慣も身に付きにくくなることから、生活面での指導も重視していく。

・AB層の育成

・AB層の児童の割合を増やすために、理解が十分でない児童への補習や個に応じた支援を実施していく。
・まずはB層の比率を増やすために、C層における理解の不十分な領域やつまづきの多い課題について、特に重点的に指導内容に盛り込み習熟を図っていく。
・授業ではペア・グループでの考えの共有や説明し合う活動を通して、思考力や表現力を伸ばしていく。また、理解度に応じて補助教材やプリント、学習カルテを活用し、学習の定着状況を確認しながら個別に支援する体制を整えていく。